

「150万全労連」を展望し、 新4か年計画の前進で 結成30周年を増勢でむかえよう

全労連副議長 はしぐち のりしお
橋口 紀塩

はじめに

全国一律最低賃金制度の実現をめざす「全国最賃アクションプラン」、
「新36協定キャンペーン」、
「非正規差別 NG」キャンペーン、「労契法18条の無期転換」や「労契法20条の均等待遇」など、この間の運動で全労連への期待と社会的信頼はかつてなく高まっている。格差と貧困を拡大する一方で、政治を私物化し民主主義をないがしろにする政治に怒りが充満している。「市民と野党の共同」の広がりや深まりのなか、運動を土台で支える全労連・地方組織への社会的信頼も高まっている。職場でも地域でも連帯を広げ、共同を重視する運動をより拡大・発展させ、要求実現と一体となった組織拡大を進めることが求められている。

今年の春の組織拡大強化月間（3～5月）における拡大数は約7万人だった。提起した「加入者倍加作戦」「新入社員100%組織化」に応えて取り組んだ単産・地方組織の連携の成果である。「組織拡大強化新4か年計画」（以下、新4か年計画）の目標は、既存組織内は「年15万人を大きく超える拡大」、新規結成・加盟は「4年間で20万人を超える労働組合の結成・加盟（1年で5万人を超

える結成・加盟）」の実現をめざすことである。この3年間では毎年10万人前後の組織拡大を行っているが、新4か年計画の目標からするとさらなる飛躍が求められている。

1 新4か年計画の到達

調整会議を軸に進む「総がかり体制」づくり

各地方組織で開催する新4か年計画を推進するための調整会議は46都道府県で継続的に開催され、単産・地域組織が拡大の課題をもちより、議論を重ねてきている。「単産と地域、官と民が文字どおり一体となって推進する総対話と共同、組織拡大強化の総がかり作戦」がこの3年間の取り組みで定着し、地方での拡大の意識はつくられている。調整会議を定期的に行う重点計画の議論・具体化を行っている地方組織では、単産をこえた取り組みの結果、重点計画での組織拡大の成果に比べ、既存組織内の組織拡大でも協力体制が生まれている。

新4か年計画の最終年をむかえた今、全労連は、すべての単産・地方組織に、あらためて産業

政策・地域政策を深め、共同を前進させながら、未組織・未加盟対策の目標を明確にして、総がかり作戦に結集しようと呼びかけている。現在、準備を進めている計画の着実な具体化と合わせ、各単産から総がかり推進委員の選出と調整会議への単産・地域組織からの計画の持ち込みをさらに強める必要がある。

最重点計画の増加と地域への広がり

新4か年計画において認定された最重点計画はこの3年間で48となった。最重点計画の認定は、昨年は目標である年間20を達成することができた。これらの最重点計画の実践による拡大総数は680人になっている（10月1日現在）。今年度も目標である年間20計画の実現に向け、全労連として、引き続き、専任オルグを中心に単産・地方組織への支援を行い最重点計画の具体化を行うこととしている。

また、最重点計画としては1年間の期限を終えたが引き続き重点計画として組織拡大が進められている重点計画でも、単産・地方組織の継続した取り組みでこれまで565人を拡大している（10月1日現在）。

総がかりの取り組みは運動の推進を反映して、都道府県段階から地域（地域組織）単位へと広げている地方組織が増加していることが特徴的だ。兵庫労連や山口県労連などでは地域組織の再建・活性化も視野に、地域組織ごとで最重点計画の議論が行えるように協議を進めている。

地域組織の再建・活性化を視野にした地域組織での最重点計画の立案・実践は、地域で未組織の組織化の可能性を切り開く重要な要素を含んでいる。多くの教訓を生んでいる愛知の介護労働者の組織化は地域組織単位で個人加盟ユニオンを立ち上げる計画を立て、実際に地域組織との共同によ

りユニオン結成が相次いでいる（別稿で詳細を記載）。

産業課題とむすびつけ全労連共済の優位性を伝えながら拡大につなげている自交総連の福岡における最重点計画や、つながりを生かし集まりやすい地域で学習会や懇談を重ねることで拡大につなげている佐賀の介護分野の最重点計画など、労働者要求（産業課題）をつかみ、その解決を訴えながら対話を重ねていくことで拡大が進んでいる。

2 新4か年計画の成功にむけて

秋の月間を跳躍台に全ての職場組織で純増を

新4か年計画を成功させ、全労連結成30年の節目となる2020年7月の全労連大会を増勢で迎えるためには、この秋の組織拡大強化月間（10～12月）の取り組みを精力的に進め、春闘期への勢いをつけることが重要である。

労働組合の日常活動を強化し、職場で労働組合が見える取り組みで、働きやすい職場・退職者を出さない職場づくりを進めよう。要求実現と組織拡大強化の相乗効果で、正規・非正規ともに、職場内100%の組織化をめざし、全ての組織が前年実績の1.5倍の組織化をめざそう。

組合の姿が見える日常活動の強化

組合員全員参加の日常活動の強化は不可欠である。要求実現・組織拡大の前進のためにも、「加入したくなる組合」「魅力的な組合」となるよう、組合の姿が見える活動を展開しよう。組合活動の時間の確保も難しくなってきたが、昼休みを使った「組合ランチ」や参加者が集まるまでの時

間を使った情勢学習や読み合わせなど、工夫を凝らしてみんなが「参加してよかった」経験を積み重ねていこう。

日常活動の強化のためにも、全員参加の組合活動を進めることが重要だ。職場実態をつかむ職場アンケートの実施、アンケートに基づく要求獲得運動（要求確立・団体交渉）、機関会議の定期開催、機関紙・ニュースの定期発行などの日常活動を定着させる。

何より「増やす人を増やす」ことが重要である。対象労働者と「年齢が近い」「席が近い」「仕事に近い」人による声かけが、加入につながることはこれまでの実践で証明されている。そして「1人が10人と対話」「1人に10回対話」と、諦めず粘り強く対話を重ねる重要性も強調したい。

拡大の取り組みは拡大目標数や拡大対象を明らかにし、「誰に、誰が、いつまでに声をかけるか」を具体化することからはじまる。下請け労働者、派遣労働者、関連職場で働く労働者、外国人技能実習生など、すべての「働く人」たちにあらゆる機会を通じて積極的に組合加入のアプローチをしよう。

非正規雇用労働者を重視

秋の組織拡大強化月間でも非正規雇用労働者の組織化を特別に重点としている。均等待遇を推進する「非正規差別 NG」キャンペーンと一体で、職場の「不合理な格差点検」を行い最賃改定と合わせた賃金の底上げと手当・処遇における格差是正のために、「あなたの力を貸してほしい」「労働組合に入って8時間働いたらまともに暮らせる社会を実現しよう！」と訴えよう。全労連共済も活用し加入の呼びかけを徹底しよう。

「非正規差別 NG」キャンペーンの一環として、パート・有期法の周知と不合理な格差の是正、非

正規雇用労働者の処遇の底上げなどを目的に実施する、11月29日の全国いっせい労働相談ホットライン「不合理な格差は禁止です。均等待遇実現ホットライン」を成功させよう。チラシの手渡しや通常の宣伝などでは情報を届けきれない労働者も多数いる。より広く周知することをめざし、11月15～28日までを全国いっせい労働相談ホットラインの SNS 拡散集中期間に設定する。「労働組合活動における SNS 活用のススメ」などを参考に、旺盛な告知・拡散を行おう。

最賃改定にあわせた賃金の底上げ、不合理な格差是正、雇用の安定（直接雇用・無期雇用）、ブラック企業根絶など非正規雇用労働者の要求実現と組織拡大を結合し、あわせて、非正規雇用労働者を組織する際の受け皿となるローカルユニオンや、単産の個人加盟組織の確立、強化を進めよう。

先進例を共有・交流し相互激励

各職場・単産地方組織、ローカルユニオンなどで拡大目標数を明確にしながら、毎月の到達（拡大数）を単産・地方組織・全労連に報告し、進捗状況を全体で把握する体制を強化する。

取り組みの底上げを図るためには、職場と地方本部、地方本部と中央本部の情報共有を行い、日常活動活性化の教訓や課題を共有することが必要だ。単産・地域組織での取り組みの集約を強め、要求実現と組織拡大を一体で進めるために、典型例・先進例・野心的な取り組みの教訓を明らかにし、瞬時に交流し励ましあいながら拡大を推進しよう。

産別・地域要求実現と組織拡大強化の結合

最賃・賃金底上げ、格差と貧困の解消など、産

業政策・地域政策などの課題を重視し、拡大の目標設定や実現したい要求も明確にし、調整会議を重ねることが重要である。単産と地方組織が一体となった取り組みをさらに広げたい。労働法制改悪反対・安倍改憲反対の2大闘争をはじめ、安倍政権の暴走政治ストップのたたかいへの共感と運動を広げ、組織拡大や新組合の結成・加盟へつなげよう。

自交総連福岡地連が最重点計画で全労連共済と相談し自動車共済のメニューを充実させ拡大につなげている。全労連共済が持つ優位性（安価な掛金、優位な保障等）を最大に生かし、加入者拡大と未加盟組織の加盟を進めよう。

長時間労働の是正につなげる36協定の見直しや「非正規差別 NG」キャンペーンを「職場に見える」形で進め、「新36協定」や「非正規差別 NG」の市民講座を各地で開催し、「労働組合があるから職場が守られている」ことを伝え、労働組合への信頼を高め拡大につなげる。

公契約条例制定に向けた運動を広範に行うと同時に、地域の中小企業、事業所、商工団体などの労使双方に積極的に働きかけて共同運動をつくり出し、全労連運動への共感と信頼を広めながら組織拡大を進める。

公務職場ではこの秋が、「会計年度任用職員制度」の条例制定が山場になることが想定されている。学習会やしゃべり場など非正規職員が集まる機会をつくり到達点を職場・地域に広げていく。制度改悪を職場に持ち込ませない取り組みをつくり、さらなるアウトソーシングを阻止するためにも未加入者に「力を貸してほしい」と訴えよう。公務職場における組合員の減少を止め、増勢に転じるため、既存組織内での拡大や空白職場の組織化とともに独立行政法人や外郭団体、指定管理者制度職場など公務関係職場の組織化にも踏み出そう。

中立・未加盟組織への働きかけ

運動課題を具体化するときは常に組織拡大を意識し、職場および地域で開催される学習会等に中立・未組織の仲間の積極的な参加を促進しよう。「新36協定キャンペーン」「非正規差別 NG」キャンペーン、「全国最賃アクションプラン」の取り組みとして、中立労組訪問など中立・未組織の仲間の積極的な参加を促進しよう。賃金底上げ、労働条件の改善、無期転換、労働法制改悪反対、社会保障の推進、憲法署名の推進などの課題で訪問・懇談を定期的に進めよう。

学習が次代を担う仲間の力に

活動の中で経験・ノウハウを次世代に引き継ぐ取り組みを位置づけよう。

全労連の初級教育制度「わくわく講座」は、2019年度では1000人の受講生獲得を最低目標に、単産・地方組織で選出された新役員に声をかけ、組合活動の基礎知識などを身に着ける場として位置づけ推進してきた。10月現在の受講生は546人で、すでに昨年実績を100人以上上回っている。今後さらに受講生が増える見込みである。

職場・地域で「わくわく講座」の活用、『学習の友』や『月刊全労連』の読み合わせなど学習と実践を結び付け、活動の中核を担う力を身に付けていこう。

3 全員参加の取り組みで職場も地域も元気に

今、秋の組織強化拡大月間の方針に基づき、様々な取り組みが進んでいる。

春から継続をしている愛知での地域ケアユニオ

ンの取り組みは、点在する介護士・看護師の組合員を地域ごとに組織化することで、組合員も元気になり、拡大も進み、同時に地域組織も元気になる取り組みとなっている。この教訓はいま他の地方組織へと広がっている。

公務職場ではこの秋の議会で「会計年度任用職員制度」導入が焦点になることから、制度について当局との交渉をはじめ、当該の非正規職員への説明会・学習会が各地で行われている。非正規雇用労働者の雇用を守り、処遇改善のためにも労働組合への加入を訴え、加入が進んでいる。自治労連青森県本部の五所川原市職労では臨時・非常勤職員30人の加入を達成し、もともとの組合員比で1割増を実現した。足を運んだ職場訪問の回数は30回を超え、こうした運動の中での組織拡大である。しっかりと意思統一、何度も出向き対話を交わしたことが信頼関係を深め、加入につながったとされている。自治労連では中立組合や労働組合のないところでも「会計年度任用職員制度」について説明会などの取り組みを行っている。

日本医労連では各地で新規組合結成が進むと同時に、共済を活用した取り組みで昨年のペースを上回る組織拡大が実践されている。

各地方組織での調整会議では新規組合結成をめ

ざす重点計画の議論に留まらず、既存組合のある職場の組織拡大へも議論が進んでいる。また、調整会議も地方組織段階から地域組織段階へと発展し単産・単組と地方（地域）の連携が進んでいる。

今から来春の準備を始めよう

全労連は、来春4月にはすぐに新規採用職員に向けた宣伝行動や組合を知る会などを開催できるように、この秋から準備を始めるよう提起している。改めて強調するが、役員だけで準備するのではなく、「増やす人を増やす」ことを意識し、「10人に1人」を目安にしている組織建設委員の選出など全員参加の取り組みにすることが重要だ。

この秋の経験をいかして20春闘へ大きな前進をつくる。そして「150万全労連」をめざし、来年7月の全労連大会ではなんとしてもすべての組織が増勢で迎えるために奮闘しよう。

〈訂正〉

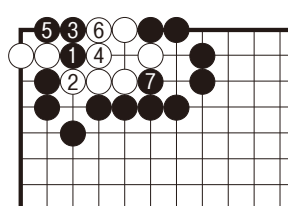
2019年11月号に誤りがありました。特集論文筆者「宇佐美俊一」さんの読み仮名「うさみしゅんいち」は誤りで、正しくは「うさみとしかず」です。ルポの「福祉保育労大阪府本部」は誤りで、正しくは「大阪地本」です。お詫びして訂正します。

詰碁・詰将棋の解答と解説

詰碁の解答と解説

解答 黒先、白死。

解説 黒1・3・5が攻め筋で、隅の眼を先手で奪い7に回って解決です。黒1で6は白4でコウになり失敗です。また、黒3で5は白3、黒6、白4でコウです。



詰将棋の解答と解説

解答 ▲1一飛△同玉▲2二角△同飛▲2三桂不成△同飛▲1二金まで七手詰。

解説 初手▲2三飛は△2二銀と上がる手が好防で▲1二金に△3一玉で逃げられてしまいます。正解は隅から打つ▲1一飛です。そして△同玉に▲2三角が一連の好手順で△同玉は▲1二金までですし△同飛も▲2三桂不成から金打ちまでとなります。